

チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子



発行者：校長 岡田 達也

～ 園が お かが やき かんばる 学校 困う えんだん 「チーム北川」 ～



**あけましておめでとうございます
3学期もどうぞよろしくお願ひいたします**



今日7日(木)から、学年のまとめとなる3学期が始まりました。2学期までの成果、そしてやり残したことを踏まえて、教職員一丸となって3学期の指導に取り組んでいきたいと思ひます。ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。始業式では、子どもたちに次のような話をしました。

3学期は、2学期に取り組んだ「つなぐ・つながる」に付け足して「ゆうき」を合言葉にしたいと思ひています。「ゆうき」とは、漢字で書くと「勇氣」であり、「優氣」とも言えます。私たち大人でも、子どもでも、自分を成長させるためには、夢や目標に向かって一歩踏み出す「勇氣」が必要です。夢や目標に向かって努力することで、いろいろな経験をし、多くのことを学ぶことができます。それらを叶えることができるかどうかは、この「勇氣」次第とも言えるのではないのでしょうか。「勇氣」とは、「いさましい意気、困難や危険を恐れない心」という意味です。



また、夢や目標を叶えるためには、人との関わりが欠かせません。そして人と関わる時、「相手を思いやる優しい気持ち」が重要です。まさに、「ゆうき」は、「優しい気持ち＝優氣」とも言えます。

3学期は、子どもたちに『つなぐ・つながる』ための「勇氣」と「優氣」を育てていきたいと考えています。子どもたちが使用している国語の教科書・3年生(下)に、『モチモチの木』(齊藤隆介作)という物語があるのをご存じでしょうか。私はこの物語が大好きで、特に最後の場面で、臆病者の主人公豆太に向かってじさまが語った内容が大好きです。

「おまえは、山のかみさまの まつりを みたんだ。モチモチの木には ひがついたんだ。おまえは ひとりで よみちを いしゃさまよびに いけるほど ゆうきのある こどもだったんだからな。

じぶんで じぶんを よわむしたなんて おもうな。

にんげん、やさしささえあれば、やらなきゃならねえことは、きっと やるもんだ。」

私は、このことは、人間にとって一番大切な根っこの部分を表しているように感じています。優しさは、時として勇氣に変わります。いつもは甘えん坊で臆病者の豆太ですが、はらイタで苦しむじさまを助けようと真夜中に寝間着のまま、裸足で、半道(1里の半分＝約2キロ)もあるふもとの村まで医者様を呼びに走ったように。相手を思いやる優しさは、勇氣を生みます。

先人の「勇氣」に関わる言葉で、子どもたちにも参考になるなあとと思うものを紹介します。

『人は何度やりそこなっても、「もういっぺん」の勇氣をうしなわなければ、かならずものになる。』

【松下幸之助】

『失敗したからってなんなのだ？失敗から学びを得て、また挑戦すればいいじゃないか。』

『夢をかなえる秘訣は、4つの「C」に集約される。それは、「Curiosity好奇心」「Confidence自信」「Courage勇氣」「Constancy継続」である。』

【ウォルト・ディズニー】

成長や向上するためには、何事も、あきらめずに取り組むことが大切です。次の学年につながる3学期は、一歩踏み出す勇氣を、そしてその勇氣を支える優氣をもって取り組んでほしいと思ひます。